

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記 編集委員会
作成者（著者）	東邦看護学会編集委員会
公開者	東邦看護学会
発行日	2021.03.01
ISSN	21855757
掲載情報	東邦看護学会誌. 18(2). p.55 55.
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD77805134

編集後記

東邦看護学会誌第18巻2号をお届けします。本号には、原著1本、研究報告2本、実践報告2本の内容が掲載されています。

原著では、地域包括支援センター看護職が都市部に在住する閉じこもり高齢者に対して行っている訪問支援について半構造化面接を行い、「高齢者に会えるまで根気強く関わる」「看護職の持つ技術を活かす」「高齢者のニーズに寄り添う」「支援の方向性をつける」といった支援を実施していることを明らかにしています。

1本目の研究報告では、入院時の患者糞便試料より分離された腸内細菌に対して各種抗菌薬の感受性および遺伝学的性状を調査し、入院時患者において、カルバペネム系抗菌薬耐性菌が3.2%、第三世代セフェム耐性菌が9.5%の割合で認められ、市中に各種抗菌薬耐性株を保有する患者が存在することを明らかにしています。2本目の研究報告では、オリジナルの映像教材の教育効果について、さまざまな観点から検討されたことが報告されています。

1本目の実践報告では、現任看護師を対象とした実習プログラムにおいて実習指導者が感じる指導上の困難や工夫を明らかにし、実習指導者の役割や指導のあり方について検討を行っています。2本目の実践報告では、地域包括ケア推進のための教育プログラムを受講した退院支援看護師が、生活への気づきを促す学習環境において他の専門職の理解を深め、生活を大切にしたい支援のあり方に気づき、本人や家族の思いを尊重する重要性に気づいた上で支援を行うようになったという変化が丁寧に記述されています。

この原稿を書いているちょうど1年前、新型コロナウイルス感染症国内最初の患者が報告されました。現在は流行第3波の只中、東京都は2度目の緊急事態宣言下にあります。日々、医療体制の逼迫が報じられ、保健師や看護師の厳しい状況が推察されます。関係各位に敬服の念を抱くとともに、本号に掲載されているような看護実践や研究の必要性の高まりを感じております。

最後になりましたが、編集委員を2年間務めさせていただき、多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。

坂本 なほ子

編集委員会

- 委員長 岸 恵美子 (東邦大学看護学部)
 委員 安岡 砂織 (東邦大学看護学部)
 坂本 なほ子 (東邦大学看護学部)
 中田 かおり (東邦大学看護学部)
 後藤 喜広 (東邦大学看護学部)
 芳澤 正子 (東邦大学医療センター大森病院)
 山田 亨 (東邦大学医療センター大森病院)
 安藤 弓子 (東邦大学医療センター大橋病院)
 井草 ひろみ (東邦大学医療センター大橋病院)
 古川 信章 (東邦大学医療センター佐倉病院)
 原田 洋平 (東邦大学医療センター佐倉病院)
-